

日南町森林組合のFSC森林認証 取得効果発揮に向けた調査

永松 大¹

¹地域学部地域環境学科

本研究では、鳥取県西部に位置する日野郡日南町を例に、日南町森林組合の森林認証取得について研究を続けている。過疎社会では人的資源の不足から、地域資源の管理ができなくなることが多く、アクセスに難のある森林資源はその典型ともいえる。FSC森林認証の活用による林業経営体の経営改善と持続可能性の担保は、社会に不可欠なとりくみである。日南町森林組合は、2010年春にFSC森林管理認証を取得した。そこで今年度は、日南町森林組合を中心としたFSC森林認証の活用に向けて、現時点における地元の森林認証制度に関する理解度をさぐるため、主に林業関係者を対象におこなったFSC森林認証に関するアンケート調査を行った。

その結果、FSC森林認証制度自体のしくみは、徐々に浸透していることが明らかとなった。特に日南町内では、FSC森林認証自体の広報はすすんでいることがわかった。次の課題は日南町外の方にFSC森林認証制度をPRしていくことといえる。回答者がFSC森林認証に期待する項目としては、「流通・加工の信頼性向上」が最も多かった。これは、森林認証取得の際に取得者が期待する内容として一般的であるが、一方で認証体が実際に実感する効果とは異なることもわかっている。認証取得により得られる効果として、他の認証体では「販売先の拡大」「一般消費者への直接販売」「見学者の増加」「異業種とのネットワーク形成」が報告されており。日南町でこれらの効果をえるためには、まずはFSC森林認証取得の町外への広報、情報発信が重要と考えられる。

Key Words : forest management, FSC certification, sustainable forestry, the public benefit

1. 緒言

森林認証制度は、林業と木製品の流通にかかわる環境ラベリング制度として現在定着しつつあるしくみである。ある基準を満たし認証を得た経営体が認証ラベルをつけた木材や木材製品を生産し、消費者がこのラベルをもとに木製品を選択的に購入する。これにより、消費者は環境に配慮した林業経営体を支援でき、森林保全に貢献することができる。林業経営体は消費者が選択的に購入してくれることで、認証取得の利益をえる、というのが基本的な枠組みである。

森林認証制度には国や地域に特化した認証や国際的な認証が複数存在する。その中でFSC (Forest Stewardship Council 森林管理協議会) が管理する FSC 森林認証は、世界共通の審査基準に基づいた、最も大きな国際的な森林認証制度 (日本森林管理協議会 2008) である。FSC が作成した審査基準に基づき、環境と地域に配慮した森林管理、木材の加工を行なっている経営体が審査・認証される。

森林認証では、木材の生産から流通までのトレーサビリティを確保するため、素材生産・森林管理団体につい

て審査する「FM 認証」と、生産された木材の加工・流通段階について審査する「CoC 認証」の2種類がある。素材生産を担う森林管理段階である FM 認証について、日本では 2002 年に三重県の速水林業が初めて FSC 森林認証を取得した。その後、認証取得は次第に増加し、2011 年 2 月現在で 33 の経営体が FSC の FM 認証を取得している (日本森林管理協議会 2011)。

本研究では、鳥取県西部に位置する日野郡日南町の森林を例に、日南町森林組合の森林認証取得について研究を続けている。日南町の森林管理を行っている日南町森林組合は、林業者の意識改革と収益面の効果を狙い、2010 年春に FSC 森林管理認証を取得した。この日南町森林組合の取組に関与することで、中山間地の林業体が森林認証を取得し、これを活用する際のプロセスや課題について整理し、取得後の制度活用を促進することで地域活性化に貢献するのが研究の目的である。

FSC 森林認証取得の審査では、土壌浸食や水資源の保全、施業にあたっての環境への影響評価の徹底などの環境配慮、管理計画の文書の整理、モニタリングなどの項目が重視されている (杉浦ら 2005)。筆者は認証取得の準備段階で 2008 年以来、日南町において、FSC 森林認

証取得に必要な環境配慮に関して調査研究を行ってきた。例えば、FSC 森林認証の要求事項のひとつに、地域における「保護価値の高い森林」の特定とその保護がある。筆者らは、保護価値の高い森林の解析のため、日南町内で既に策定されていた環境保全区域指定地を中心に、40地点の森林で調査・解析を行い、生物多様性が高いあるいは自然状態で広い面積が残っている森林と、地域社会の文化を守る上で重要な役割を果たしている森林の2タイプを合わせて11植生タイプを抽出した(永松ら2008)。

FSC 森林認証では、木材生産のための人工林においても生物多様性に配慮した森林管理が必要とされる。人工林への広葉樹の定着誘導については、一般には間伐を行うと広葉樹類の定着が増大し、下層植生が発達するとされる(清野1990)。生物多様性に配慮した人工林の管理方法としては、列状間伐による針広混交林への誘導(林野庁2005)が推奨される。列状間伐は、大規模皆伐に比べて種子供給や、攪乱依存種との競争軽減による自然種の保護効果が期待できる(Ito et al 2006)とされる。この中で、傾斜や斜面方位などの環境条件と、枝打ちや間伐などの施業履歴を組み合わせた解析を日南町内でスギ人工林で実施し、生物多様性に配慮した人工林管理の方法について検討した(永松2009)。

その結果、スギ人工林内における広葉樹亜高木層の発達はスギ林齢と密度の影響が特に大きかった。高齢で密度が低いほど、スギ林冠下の亜高木層多様度指数は高かった。FSC 森林認証が理想とする高い生物多様性のためには、適切な手入れと高齢林への誘導が望ましいと考えられた。急傾斜地では下層の多様度指数が低くなる傾向があった。間伐の程度が下層植生に与える影響は大きく、除間伐の際への下層植生の配慮が望まれた。生物多様性維持のためには、全伐地への雑木の植栽や土壌浸食防止が必要で、水質保全のための保護区設置も必要と考えられた。保護区は、尾根沿い、傾斜45°以上の急傾斜地及び溪流沿いのバッファゾーンへの設置が想定された。

実際の森林認証の取得については、日南町森林組合や日南町役場と連携して森林認証に関する情報交換を続け、日南町でFSC森林認証に関する講演を行うなどの活動を行ってきた。日南町に先立って認証を取得した、岡山県の美作森林組合西粟倉事業所を日南町役場、日南町森林組合と共同で訪問し、認証取得に必要な森林管理や取り組みについて聞き取り調査を行なったこともある。

その後、日南町森林組合が中心となって認証準備を進め、平成22年3月には日本国内で31番目の認証団体としてFSC森林認証(SA-FM/COC-002427)を取得した。そこで、今年度は、日南町森林組合を中心としたFSC森林認証の活用に向けた調査・研究を行うことを計画した。

過疎社会では人的資源の不足から、それまで活用されてきた地域資源の管理ができなくなることが多く、アクセスに難のある森林資源はその典型ともいえる。FSC森林認証の活用による林業経営体の経営改善と持続可能性の担保は、これからの過疎社会に不可欠なとりくみである。

日南町森林組合は認証こそ取得したものの、維持に向けた指摘事項は数多く、認証効果もほとんど得られていない状態である。このため、本研究では認証効果を高めるための手立てを森林組合と共同で考え、検証に協力することで、過疎地域の森林経営体がかかえる問題や改善の手立てについて検討する。

この報告書では、現時点における地元の森林認証制度に関する理解度をさぐるため、主に林業関係者を対象におこなったFSC森林認証に関するアンケート調査の結果について報告する。

2. アンケート調査方法

(1) 日南町の概要

鳥取県南西端の日南町は中国地方のほぼ中央部に位置し、島根県、岡山県、広島県の三県に隣接している(日南町2011)。町の南部には1000m級の山がそびえ、北部にはなだらかな台地が広がっている。町域は東西25km、南北23kmに広がり総面積は340.87km²である。冷涼多雨な気候で、平均気温は標高490mの地点で約11℃、降水量は年約2000mmである(日南町2011)。冬には場所により1.0m~1.5mの積雪がある。

日南町の町域のうち約90%を森林が占める(日南町森林組合30年史1993)。花崗岩地が多く、たたら製鉄の産地として、山林では古くから製鉄用の木炭生産が盛んに行われていた。明治期にたたらが衰退すると、山林は家庭用薪炭産地に転換され、エネルギー革命とともに、スギ・ヒノキの植林が盛んになり、現在に至っている。

(2) アンケート調査

鳥取県日南町、三朝町、智頭町の三町では、ともに広大な森林を有し、鳥取県内主要3河川の源流を有していることから、2001(平成13)年以降、地域資源である自然環境の活用をテーマに「源流サミット」を持ち回りで開催している。2010年度の「源流三町シンポジウム」は「FSC森林認証制度による林業再生への展望」と題して、3町長ほかが参加し2011年1月24日に日南町にて開催された。

このシンポジウムの基調講演にて、筆者は「FSC森林認証制度の活用に向けて」と題して講演を行った。日南

町森林組合が平成 22 年 3 月に取得した FSC 森林認証の取得の経過や、その活用方法について紹介を行い、来場者の認識を高めることをめざした。シンポジウムには 3 町の関係者や林業に関心のある市民 80 人ほどが参加した。この機会を利用して、参加者を対象に、FSC 森林認証の認知度について確認するためのアンケート調査をおこなった。

アンケートは A4 用紙 2 ページの分量で、個人を特定しない無記名方式とした（参考資料参照）。住所や年齢、性別や職業など回答者の属性を問う質問に計 9 問、FSC 森林認証に関連する質問に計 9 問をあて、最後に林業全般や FSC 森林認証について、自由回答欄をつくった。

3. アンケート結果

日南町役場にご協力いただき、会場で回収できたアンケート回答は計 34 であった。回答者の住所は、日南町内が 17、町外その他が 17 と半々であった。職業は、公務員 14 人、農林業 10 人が多く、民間企業という答えは 2 人だけだった。特に町外在住者のうち 10 人が公務員であり、これは源流サミットに出席した智頭町および三朝町職員の方が多かったためと想像された。性別は男性が 31 名であり、今回の結果は、50- 60 歳代の男性が主な回答者であったといえる。山林所有者は 23 人と全体の 2/3 を占めたが、日常の森林とのかかわりでは、「山にはほとんど入らない」という人が 16 人と半分を占めた。

(1) 森林認証に対する認知度

FSC 森林認証制度については、全体の 2/3 にあたる 22 人が（当日の講演でなく）「以前から知っていた」と答えた。日南町内に住む 16 人に限ると、「知らなかった」と答えたのは 1 人のみで、地元での FSC 森林認証の広報が進んでいることがわかった。日南町外の人では、「以前から知っていた」人は半数程度だった（図-1）。

一方、日本にふさわしい森林認証制度をうたう国内独自の森林認証制度、SGEC「緑の循環」認証会議については、「以前から知っていた」と答えたのは 14 人で、知名度としては FSC よりも低かった。SGEC の知名度は、日南町内、日南町外の居住者ともに、日南町外における FSC 知名度と同程度で、回答者の住所とは関連がなかった。

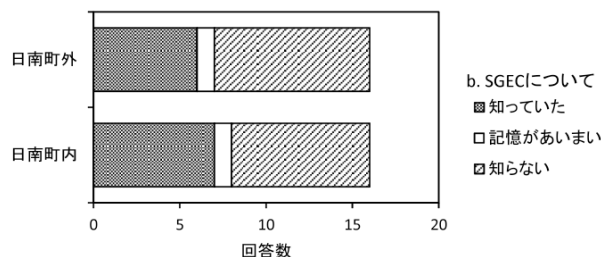
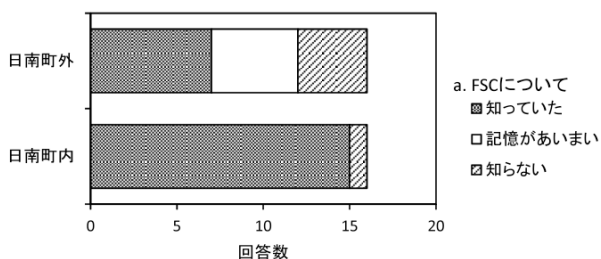


図-1 居住地による a. FSC と、b. SGEC それぞれの知名度

(2) FSC のしくみとラベルつき商品

林業経営体を第三者機関が認証し、そこから生産される木材製品に認証ラベルを貼るといふ FSC のしくみは「よく承知」「だいたい承知」をあわせて 17 名と半数を占めた。

FSC ラベルのついた認証商品を実際に見たことのあるのは 15 人と半数に届かなかった（図-2）。現状で FSC マークがついて実際に流通している商品として手に取りやすいのは、パンフレット・カタログ類や用紙などの紙製品が多いと思われる。FSC マークのついた具体的な商品名を尋ねる設問では、これを反映して、ノートやメモ帳、コピー用紙という回答がみられた。しかし、今回の会場に林業関係の方々が多かったせいか、具体的な商品名に、机、家具、柱材、遊び道具といった木材製品もあげた回答がみられたのが印象的であった。



図-2 FSC マーク付き商品の認知割合

(3) FSC への期待

FSC 森林認証のとりくみへの期待については、「たいへん期待する」「まあまあ期待する」あわせて 21 人と回答者の 2/3 を占めた（図-3）。「あまり期待せず」という回答は 2 人のみで、林業活性化のためのしくみとして期待を寄せられている、と見る事ができた。

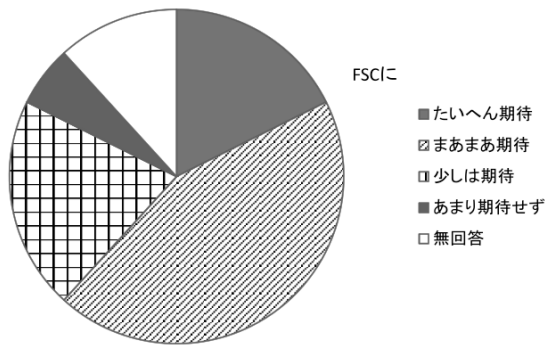


図-3 FSC森林認証へのとりくみへの期待度

アンケートでは、FSC森林認証に期待する内容を尋ねた。あらかじめ9項目を列記し、この中からあてはまるものを全て選ぶ方式で回答してもらった。回答は多様にわかれたが、最も回答数の多かった期待項目は「流通・加工の信頼性向上」、次いで「林業・木材産業の活性化」であった(図-4)。「木材・木製品価格の上昇」「森林の多面的機能の向上」「や消費者の林業理解向上」を期待するという回答も多かった。

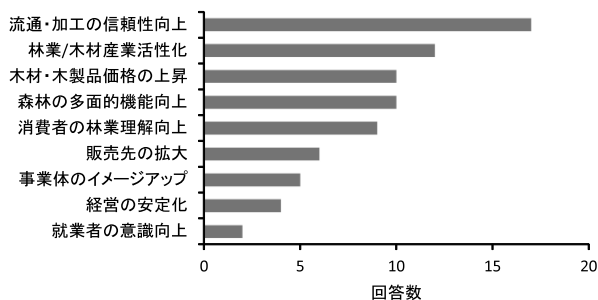


図-4 FSC森林認証に期待する内容 (複数回答)

4. 結言

本報告では、FSC森林認証制度取得後、10ヶ月ほどを経過した日南町で、FSC森林認証の理解度や期待度を明らかにする目的でアンケート調査を行った。

FSC森林認証制度自体のしくみは、徐々に浸透していることが明らかとなった。特に日南町内では、FSC森林認証自体の広報はすすんでいることがわかった。一方、智頭町町有林はSGEC森林認証を取得しているが、SGECの日南町外(智頭町を想定)における知名度が日南町内よりも高い傾向はなかった。地元におけるFSC森林認証の認識がすすみつつある今日、次の課題は日南町外の方にFSC森林認証制度をピーアールしていくことであろう。

アンケート回答者がFSC森林認証に期待する項目としては、「流通・加工の信頼性向上」が最も多かった。次に多かった「木材・木材産業の活性化」「木材・木製品

の価格上昇」とともに、これらは、森林認証取得の際に取得者が期待する内容として、一般的な項目(祝迫・佐藤2006)とされている。一方、認証取得者が実際に得られた効果としては、「事業体のイメージアップ」「販売先の拡大」が多いとされているが、今回の回答では、これらへの期待度は高くない。今回のアンケート調査の結果は、現在の日南町の状態が、認知度は高まってきたとはいえ、「森林認証の未取得者」と同様の段階にあり、今後の活用によって、効果を実感する段階に進む必要があることを示している。

では、FSC森林認証取得によって得られる実際の効果にはどのようなものがあるだろうか。祝迫・佐藤(2006)は、認証取得により得られた効果として、「販売先の拡大」「一般消費者への直接販売」「見学者の増加」「異業種とのネットワーク形成」をあげている。これらの効果をえるためには、まずはFSC森林認証取得の町外への広報、情報発信が重要と考えられる。

また、木材流通過程を管理するCoC認証の取得が町内企業では進んでいない。日南町産材を町内で加工して販売するために、町内企業によるCoC取得が期待される。販売先の拡大という面からは、三菱製紙や住友製紙などの大手製紙メーカー等、ホームセンターや工務店などへの販売戦略も検討課題にあげられる。FSC森林認証を活用していくため、町民の関心を高め、行政や森林組合、林業関係者が一歩を踏み出す必要がある。

参考文献

- Ito, S., Ishigami, S., Mizoue, N., Buckley, G. P. (2006) Maintaining plant species composition and diversity of understory vegetation under strip-clearcutting forestry in conifer plantations in Kyushu, southern Japan. *Forest Ecology and Management*, 231:234-241.
- 祝迫 孝幸・佐藤宣子(2006)森林認証取得への期待と現実.九州大学大学院農学研究院学芸雑誌, 61:381-387.
- 清野 嘉之(1990)ヒノキ人工林における下層植生群の動態と制御に関する研究.森林総研研究報告, 359:1-122.
- 永松 大・坂田成孝・長尾明美・日置佳之(2008)鳥取県日南町における環境配慮型森林管理に向けた「保護価値の高い森林」の抽出.地域学論集5:15-34.
- 永松 大(2009)森林認証取得のための環境に配慮した森林管理に関する研究.平成20年度持続的過疎社会形成研究プロジェクト研究報告書, 178-185.
- 日南町(2011)日南町の概要. In:日南町公式 web ページ [http://www. Town.nichinan.lg.jp/ p/1/16/1/4/](http://www.Town.nichinan.lg.jp/p/1/16/1/4/) (2011.4.20)
- 日本森林管理協議会 (2008) FSCについて. <http://www.forsta.or.jp/> (2008.11.13)
- 林野庁(2005)森林・林業白書. 279pp. 林野庁, 東京.
- 杉浦 克明・木平 勇吉(2005)FSC 認証機関の審査の特徴—国内17 森林の認証結果の分析から—.日本林学会誌, 87:241-246.

(参考資料)

FSC 森林認証の認識に関するアンケート

鳥取大学地域学部地域環境学科 永松 大
電話 0857-31-5112, E-mail: daina@rstu.jp

日南町森林組合では、2010年3月にFSC森林認証を取得しました。認証の効果を高めるにはどうしたらよいかを考える基礎資料とするため、ぜひ下記のアンケートにご回答いただけたら幸いです。なお、回答いただいた内容は、FSC森林認証の集計以外には使用いたしません。

○で囲んでください、該当項目がなければ具体的に書いていただいてもかまいません

ご回答いただく方について

1. お住まいの場所
A. 日南町内, B. 日南町以外の鳥取県内, C. 鳥取県外
2. 年齢
A. 19歳以下, B. 20歳代, C. 30歳代, D. 40歳代,
E. 50歳代, F. 60歳代, G. 70歳代, H. 80歳以上
3. 性別
A. 男性, B. 女性
4. お仕事
A. 民間企業, B. 団体職員, C. 公務員, D. 農林業, E. 無職, F. その他
5. 土地所有
A. 山林を所有している(面積不問), B. 所有していない
6. お仕事と日常生活の中での森林との関わりを教えてください。
A. 日常的に森林に入っている
(目的を選んでください: 林業, 林産物, レクリエーション, その他:
B. ほとんど入っていない, C. まったく入らない
7. お仕事と日常生活の中での林業(または木材)との関わりを教えてください。
A. 林業の仕事をしている, B. 木の流通・加工にかかわっている
C. ボランティア的にかかわることがある, D. 関係がない
8. 林業, 森林に関する興味について教えてください。
A. 強い興味を持っている, B. まあまあ興味がある
C. 人並み程度の興味を持っている, D. あまり興味はない, E. 全く興味はない
9. 温暖化などの環境問題に関する興味について教えてください
A. 強い興味を持っている, B. まあまあ興味がある
C. 人並み程度の興味を持っている, D. あまり興味はない, E. 全く興味はない

アンケート本体

10. FSC森林認証についてご存じでしたか?
A. 以前から知っていた, B. 知っていたかどうかよくわからない, C. 知らなかった
11. SGEC「緑の循環」認証についてご存じでしたか?
A. 以前から知っていた, B. 知っていたかどうかよくわからない, C. 知らなかった

12. FSC 森林認証のしくみをご存じでしたか？
A. よく知っていた, B. だいたい知っていた, C. 少しは知っていた,
D. ほとんど知らなかった, E. 全く知らなかった
13. FSC のロゴマークをお店でご覧になったことがありますか？
A. ある B. ない, C. わからない
14. FSC ロゴマークをご覧になった方はどんな商品でしたか？（自由回答）

15. FSC 森林認証のとりくみに期待しますか？。
A. たいへん期待している, B. まあまあ期待している, C. 少しは期待している
D. あまり期待していない, E. 全く期待していない
16. FSC 森林認証に期待する内容があれば選んでください（複数も可）
A. 森林の有する多面的機能の向上
B. 木材, 木製品の流通・加工過程への信頼性向上
C. 地域の林業, 木材産業の活性化
D. 木材, 木製品価格の上昇
E. 販売先の拡大
F. 消費者の森林, 林業, 木材産業への理解向上
G. 事業者のイメージアップ
H. 就業者の意識向上
I. 経営の安定化
J. その他（具体的に：）
17. 環境によいことが示してある木製品を購入する意欲について教えてください。
A. 2,3割高くてもほぼ必ず購入する, B. 少し高いくらいなら優先的に購入する
C. 同じ価格なら考慮する, D. 金額によらず環境のことは気にしない
E. とにかく安いほうを買う
18. 日南町の山（森林）の状態についてどう思われますか？
A. たいへんよい, B. まあまあよい, C. 良くも悪くもない, D. あまりよくない
E. よくない, F. わからない
19. FSC 森林認証を活かすために必要と思われることがあれば自由にお書きください。

20. 森林組合や今後の林業のあり方についてご意見があれば下にお書きください。
ご協力ありがとうございました。